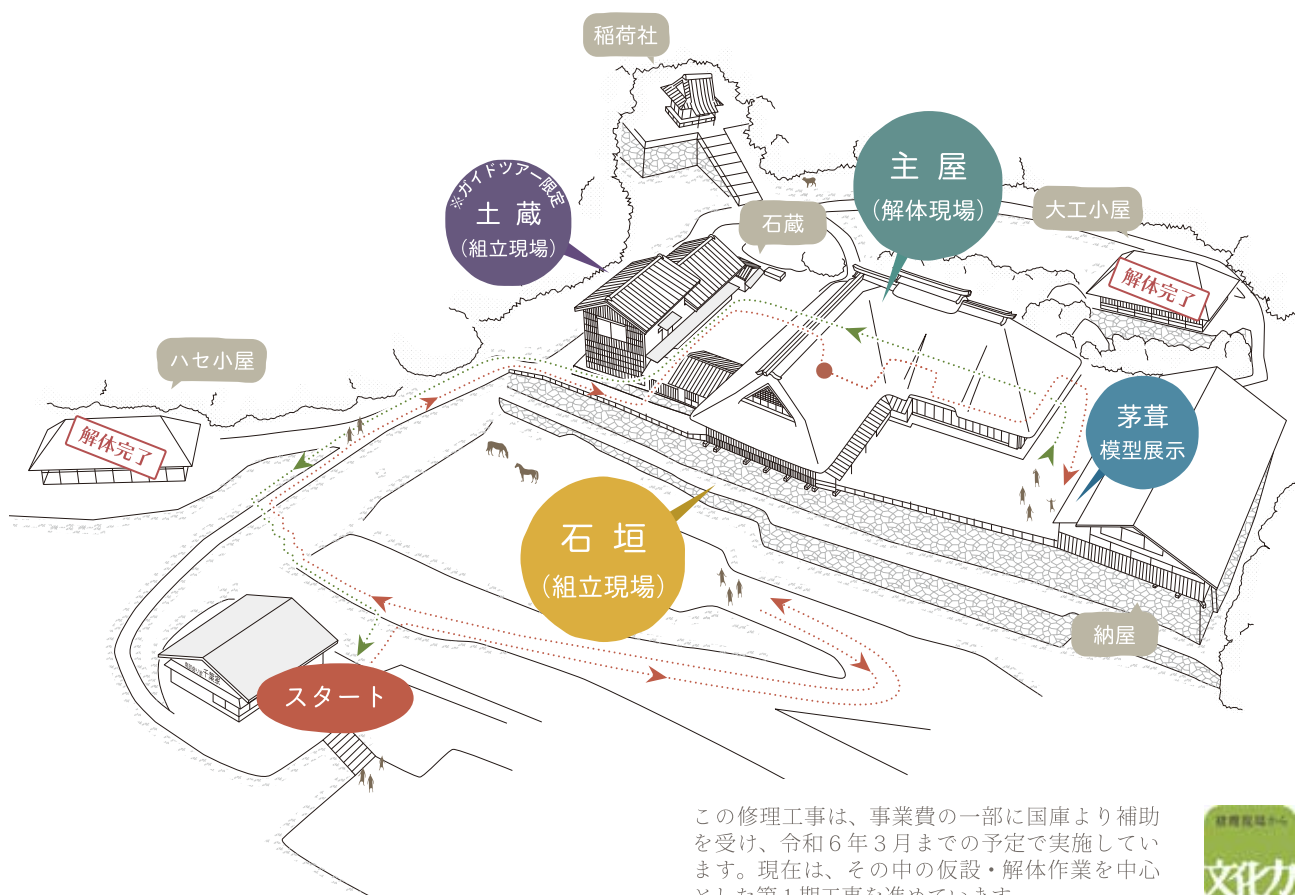


重要文化財  
千葉家住宅  
修理工事見学会

3

2019.08.04 sun

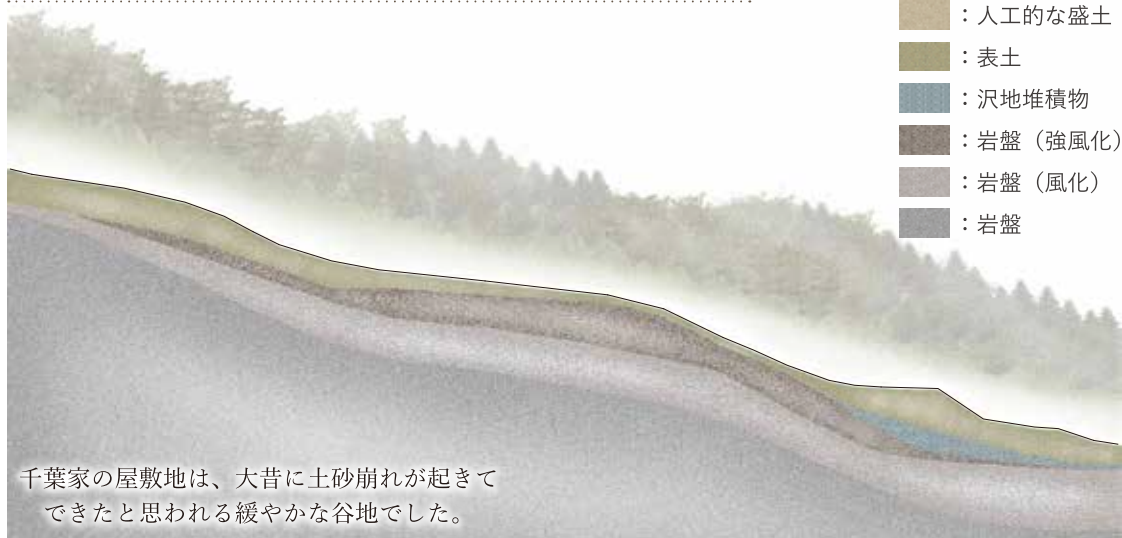
江戸時代、飢饉に苦しむ人々に蓄えを分け与えるための事業として  
10年の歳月を費やし、建てられたと伝わる豪農・千葉家の屋敷。  
いま『世紀の大修理』と銘打ち、再び10年をかけて甦らせています。



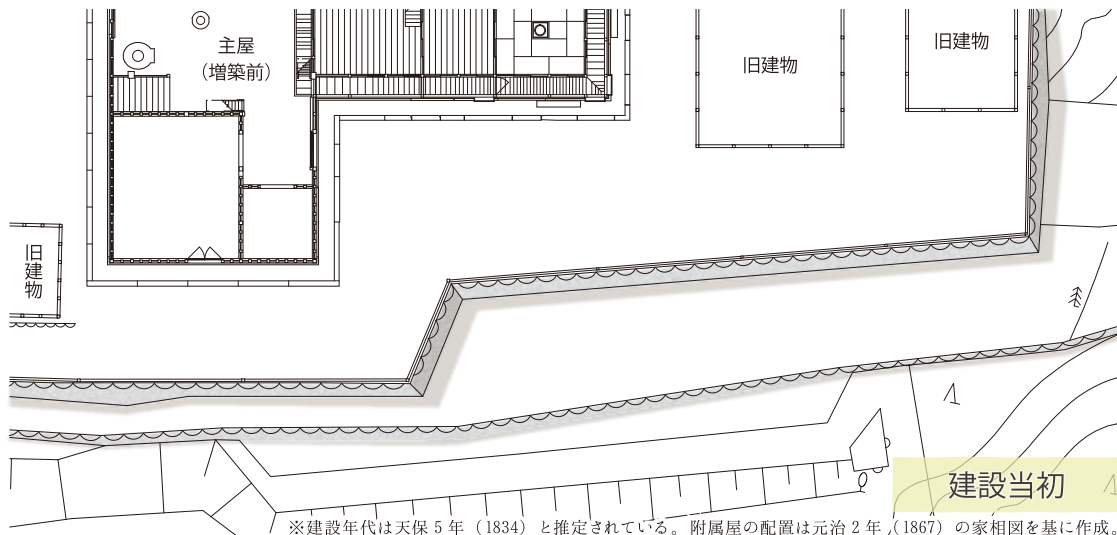
この修理工事は、事業費の一部に国庫より補助を受け、令和6年3月までの予定で実施しています。現在は、その中の仮設・解体作業を中心とした第1期工事を進めています。



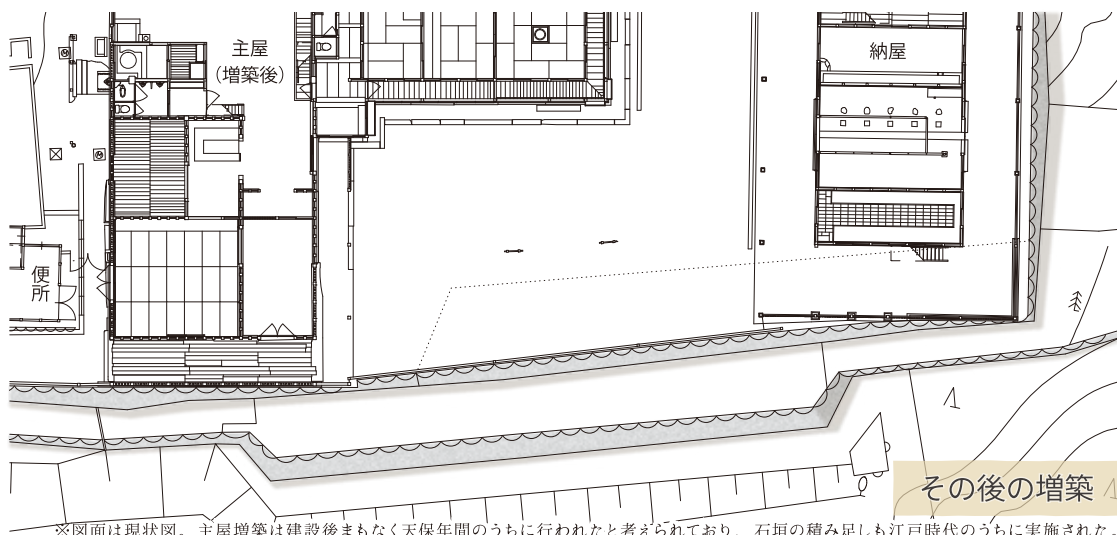
## 千葉家の屋敷地の成り立ち



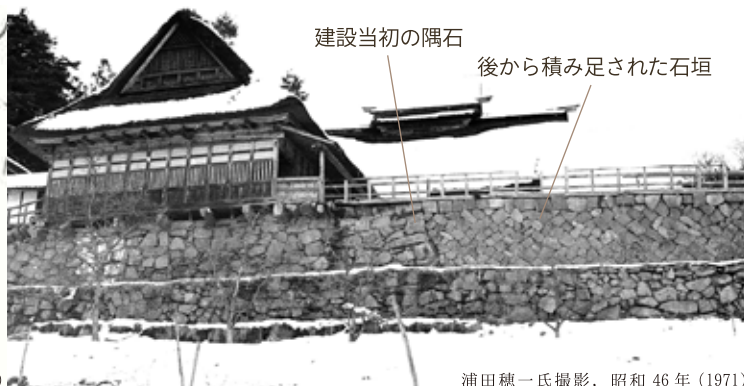
# 千葉家の石垣の変遷



※建設年代は天保5年(1834)と推定されている。附属屋の配置は元治2年(1867)の家相図を基に作成。



※図面は現状図。主屋増築は建設後まもなく天保年間のうちに行われたと考えられており、石垣の積み足しも江戸時代のうちに実施された。





# 千葉家の石垣の特徴

石の加工

のつら  
“野面”  
自然石をそのまま、または適当に割っただけで整形せずに用いる

うちこみ  
“打込ハギ”  
石を割ってある程度整形する隙間は小さい石で埋める

きりこみ  
“切込ハギ”  
石を切って精密に加工し隙間なく積み上げる



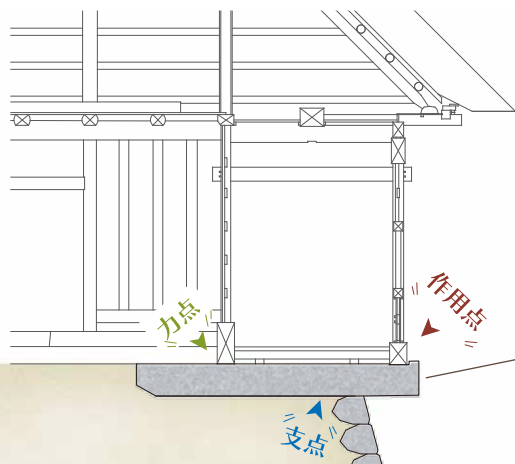
積み方

らんづ  
“乱積み”  
規則性なしに、ランダムに積み上げる

ぬのづ  
“布積み”  
各段の石の高さを合わせ、横方向の目地を揃える

たにづ  
“谷積み”  
石を斜めに用い、互い違いに積む

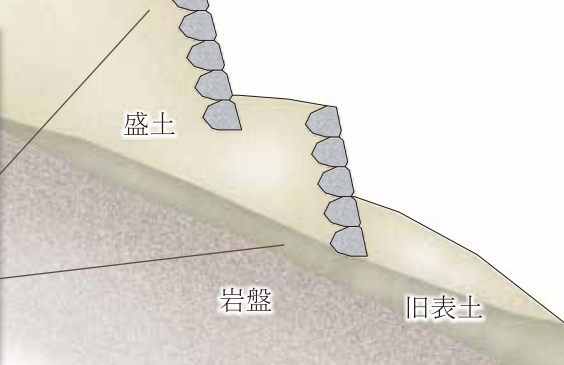
※積み方はこの3つ以外にもいろいろあります。



もちおくりいし  
“持送石”  
石垣から突き出して建物を支える石を、現場では持送石と呼んでいます。石垣より外に出た建物をテコの原理で支えており、大きなものでは長さ 4m、重さ 1.7t にもなります。

！保存上の問題！

- ① 栗石（ぐりいし）が入っていない。
- ② 軟らかい旧表土の上に乗っている。



石垣

千葉家の石垣の特徴

沈下を修正

沈んでしまった石垣を  
建物に合わせて高くする

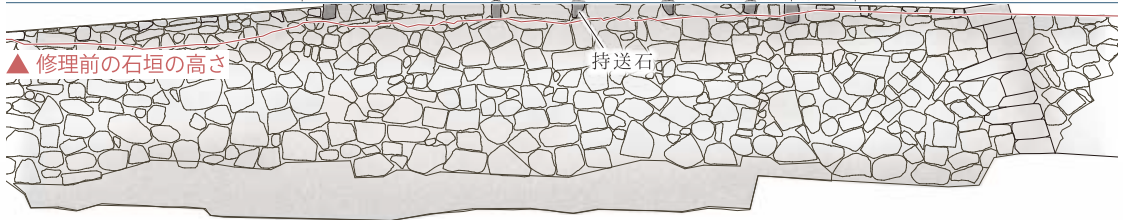
隅石を復原

解体していない部分との  
高さ調整をここで行う

▼ 修理後の建物が乗る高さ

▲ 修理前の石垣の高さ

持送石



石垣補強

千葉家の景観を特徴づける元来の石垣の  
積み方を再現するため、見えない部分で  
しっかりとした補強を施し、構造的な問  
題を解消します。

R C 持送石支柱

持送石を乗せ、建物の荷  
重を支える。  
石垣本体の負担を軽減す  
る工夫。

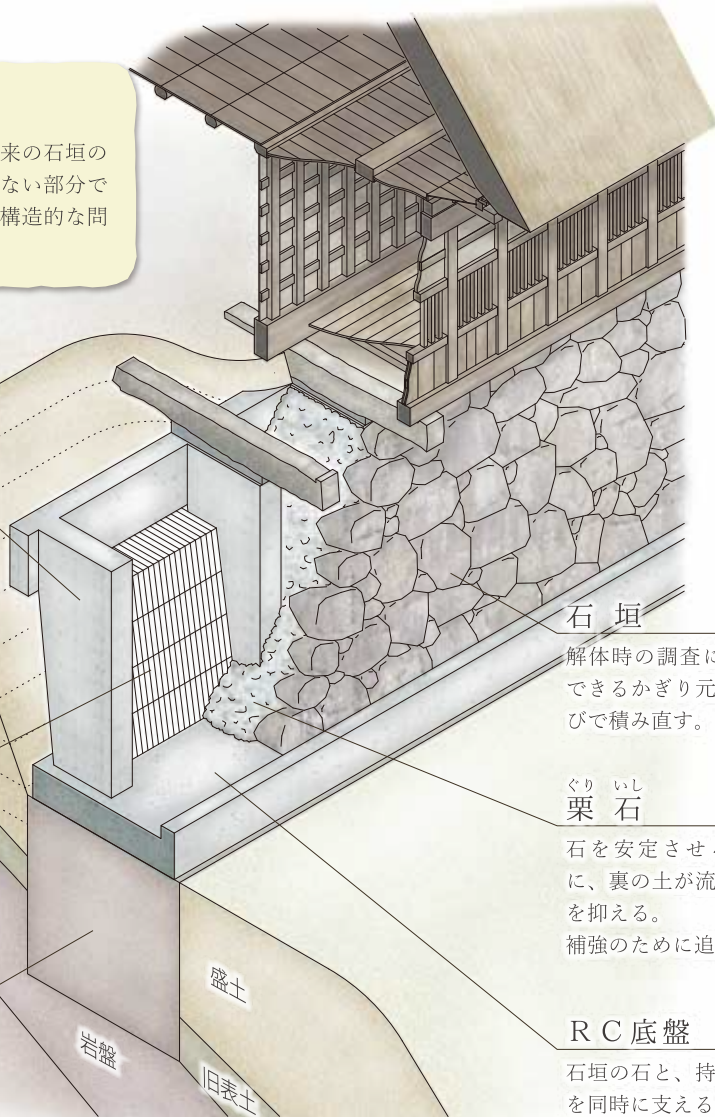
盛土  
旧表土

補強土壁

特殊なシートを敷き込  
み、土が流れ出したり、  
ずれ出して石垣を押し  
てしまうのを防ぐ。

地盤改良

安定した固い岩盤まで地  
盤改良を施し、沈下しな  
い基礎をつくる。



石垣

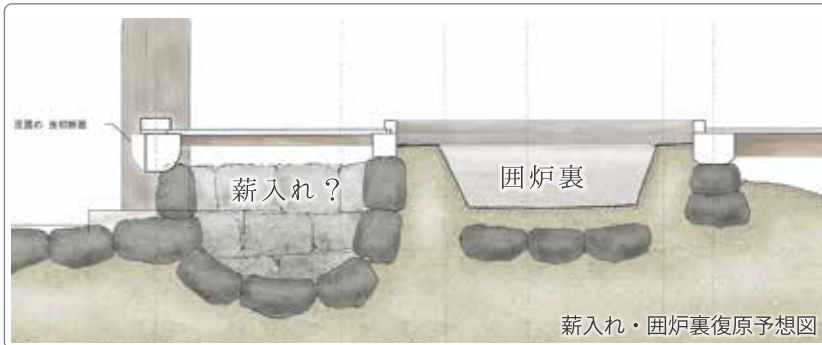
解体時の調査に基づき、  
できるかぎり元通りの並  
びで積み直す。

ぐりいし  
栗石

石を安定させるととも  
に、裏の土が流れ出すの  
を抑える。  
補強のために追加。

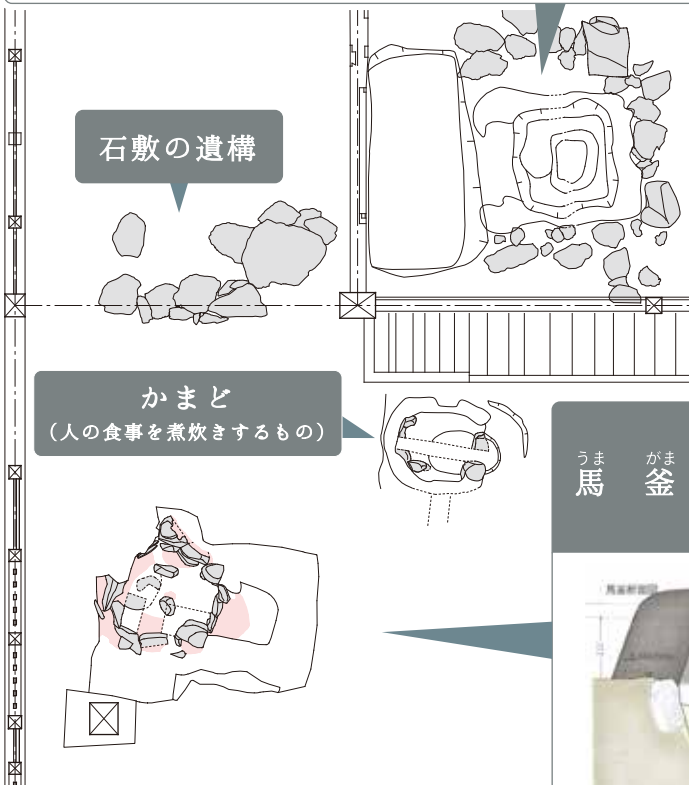
R C 底盤

石垣の石と、持送石支柱  
を同時に支える。



### 囲炉裏と 床下収納

ダイドコロの大きな  
囲炉裏の横に、石組の収  
納が発見されました。  
薪入れではないかと考  
えられています。



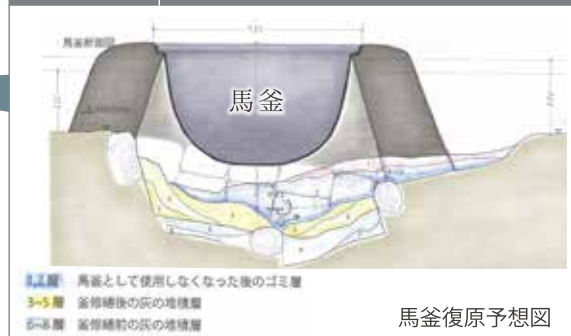
石敷の遺構

かまど  
(人の食事を煮炊きするもの)

うま  
馬

がま  
釜

馬の餌を煮炊きするカマドは、釜が  
大きいため下に少し掘り込んだつ  
くりになっていました。



2-3層 馬糞として使用しなくなった後のゴミ層

3-5層 釜修繕後の灰の堆積層

5-6層 釜修繕前の灰の堆積層

馬釜復原予想図

地面に残る暮らしの跡



ハシリの壁の変遷



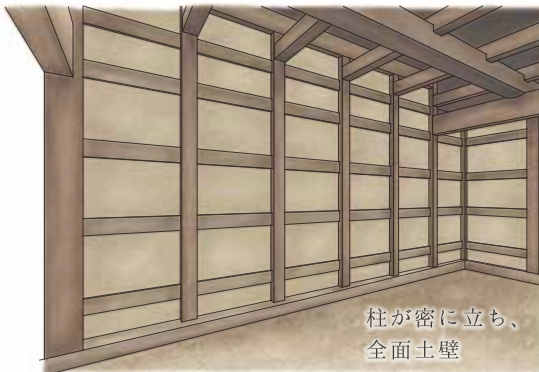
修理前はたくさんの窓がついて日光が入ってくる明るい部屋でした。

⇩ 解体してみると ...



窓の部分にかつて土壁がついた痕や、柱が切断された痕が見つかりました。

⇩ 昔の姿を推測すると ...



土間の上がり縁の変遷



修理前は、奥の部屋と同じくらいの床高の縁が、一定の幅でL字型にまわっていました。

⇩ 解体してみると ...



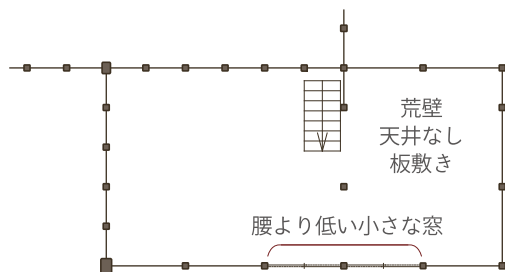
古い縁の一部が下に残っており、縁の出を変えた痕跡も見つかりました。

⇩ 昔の姿を推測すると ...

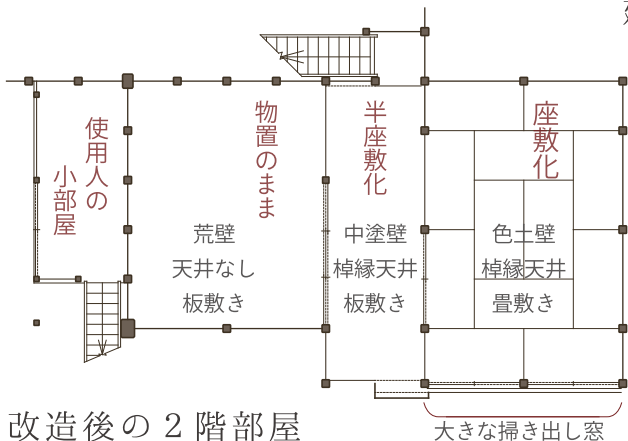


# 変化の理由

屋根切り上げ



建設当初の2階部屋

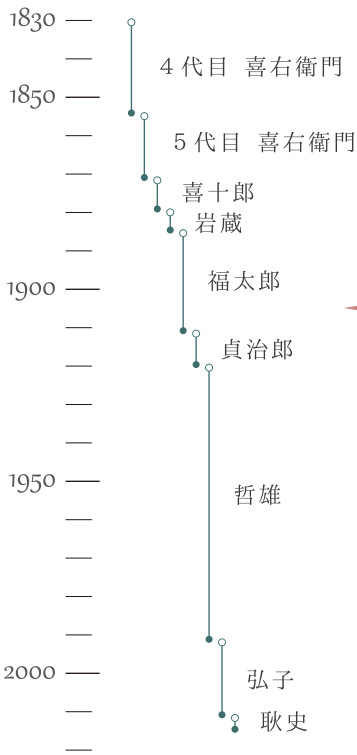


改造後の2階部屋



改造後の壁紙の下地に使われていた新聞。明治41年の日付。

## 千葉家の歴代当主



## 文書史料からわかったこと

福太郎の代 [明治18年(1885)~明治45年(1912)] 頃に金融業など多角的に経営拡大して千葉家が大きく発展



明治41年(1908) 貞治郎が東京の大学から遠野へ戻る  
 明治44年(1911) 貞治郎・テル結婚  
 2階での生活が日記に描かれる

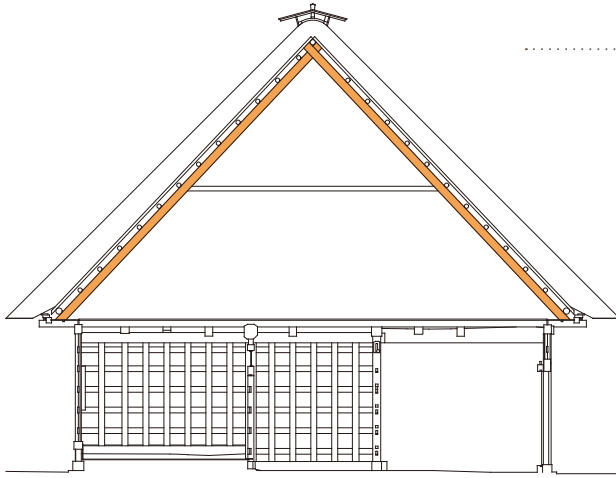


2階の改造は、時の当主・福太郎が息子・貞治郎の新生活のために明るい生活空間を用意したものと考えられます。

主屋

変化の理由





さすぐみ

## 馬屋：扱首組

扱首（さす）とよばれる長い材料を  
ナナメに組み合わせるつくり。

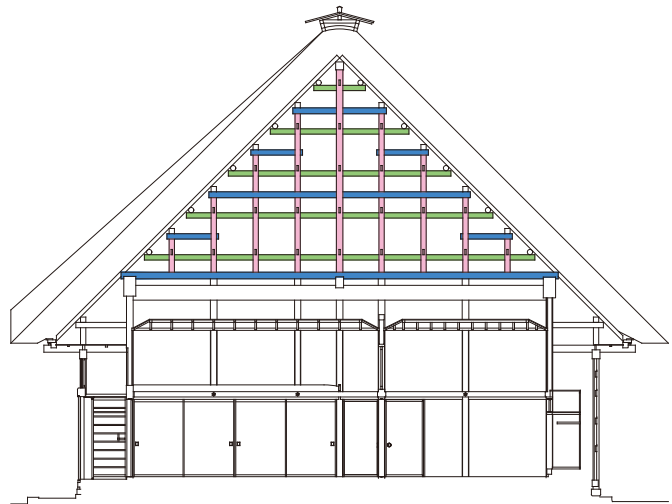


馬屋の扱首組

本屋の和小屋組

わごやぐみ  
本屋：和小屋組

きれいに加工した材料を  
細かく積み上げていくつくり。



主屋

構法の意味

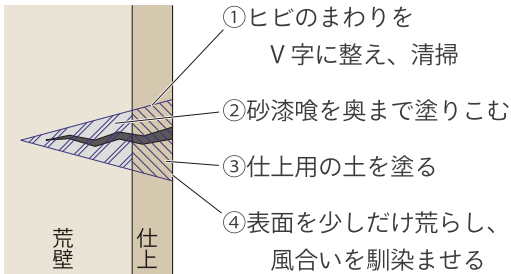
1つの建物ながら、馬屋部分と本屋部分で骨組みを使い分けているのが、千葉家の特徴です。



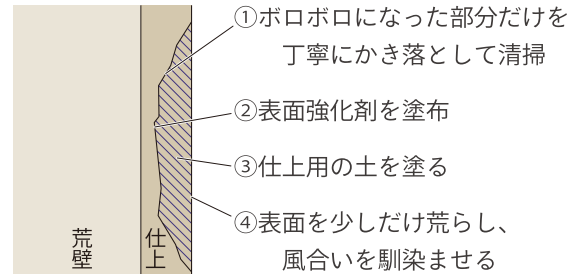
※土蔵はガイドツアー限定でご覧いただけます。

## 解体しない修復の技術

### ヒビ割れした壁の補修



### 風化した壁の補修

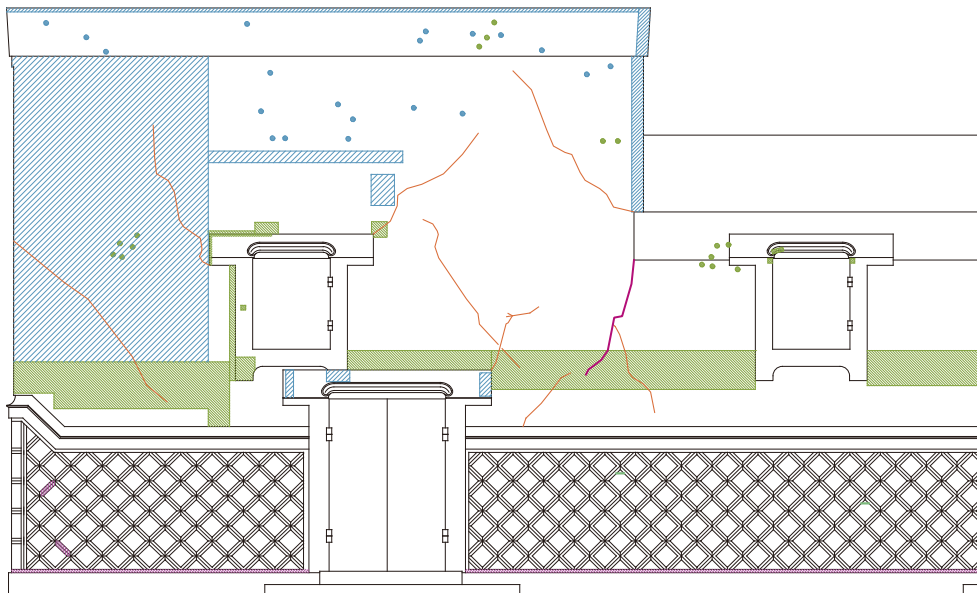


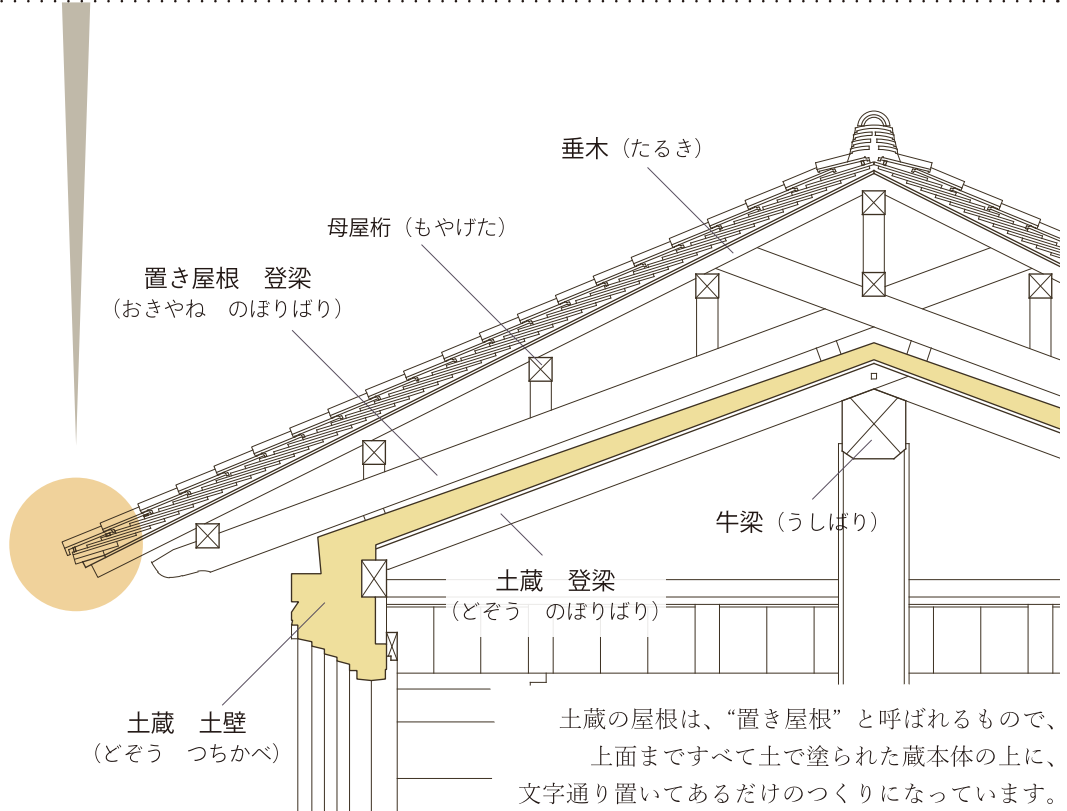
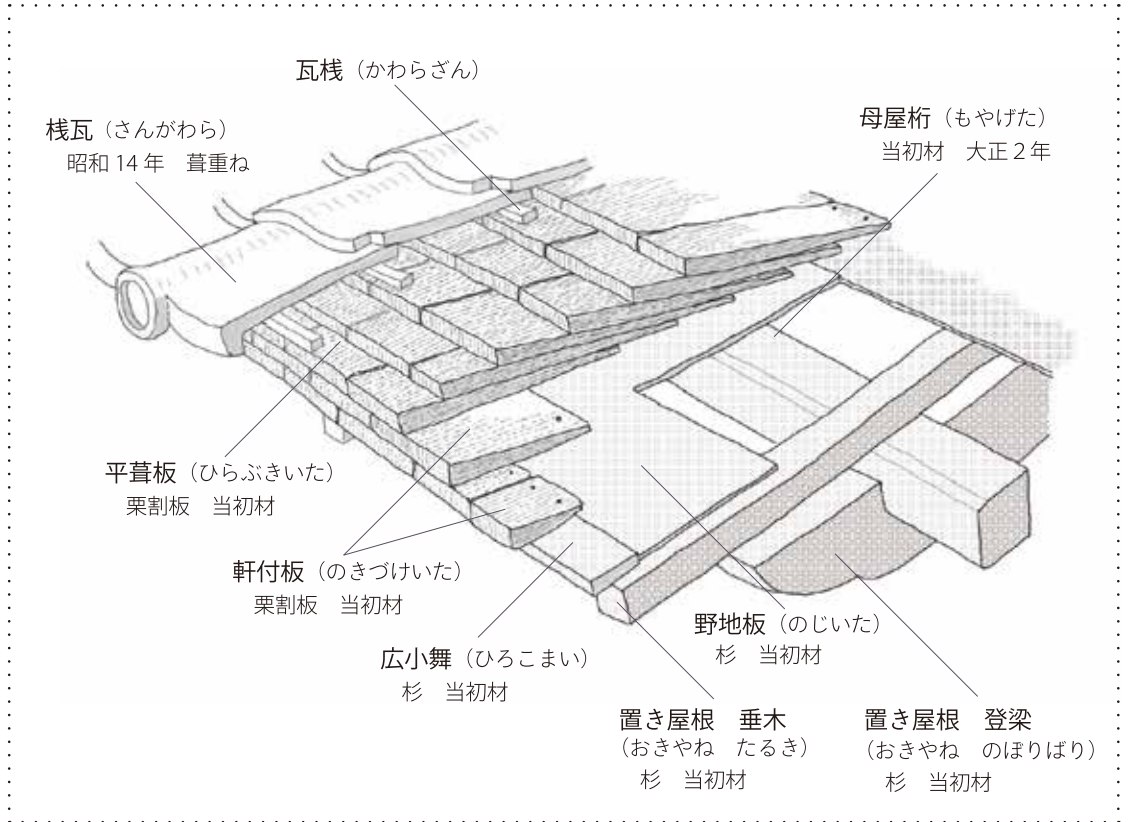
— : ヒビ補修 大 ① → ② → ③ → ④

— : ヒビ補修 中 ① → ③ → ④

▨ : 塗り補修 中 ① → ② → ③ → ④

▨ : 塗り補修 小 ① → ②





土蔵の屋根は、「置き屋根」と呼ばれるもので、上面まですべて土で塗られた蔵本体の上に、文字通り置いてあるだけのつくりになっています。



所有者  
事業主体

遠野市

千葉家住宅  
第1期修理工事

平成28年6月  
～令和2年1月  
(予定)



公益財団法人  
文化財建造物  
保存技術協会  
(略称：文建協)



株式会社  
テラ

修理設計  
工事監理  
記録調査 など  
+  
このパンフレットの作成

材料や職人の手配  
実際の施工  
現場の安全管理 など

遠野市公式 HP で毎月の工事の様子を紹介しています。

QRコードから



または

千葉家 修理

で検索